

ボランティアコーディネーション

第5回

ボランティアコーディネーターの役割を考える

特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 事務局長

ごとうまりこ
後藤麻理子

■ボランティアコーディネーターの8つの役割

先月号でご紹介した(ボランティアコーディネーション力検定)のテキストには、ボランティアコーディネーターの役割として8つのことが挙げられています。(※)

- ①「受け止める」：市民や団体からの多様な相談に対応する
- ②「求める」：ボランティア募集、活動の場を開拓する
- ③「集める」：情報を収集し、整理・加工する
- ④「つなぐ」：個人と個人、個人と組織、組織と組織を結ぶ
- ⑤「高める」：学びや振り返りの機会を提供する
- ⑥「創り出す」：プログラム開発やネットワークをつくる
- ⑦「まとめる」：活動の記録や事例、統計資料を作成する
- ⑧「発信する」：情報を発信したり、アドボカシー活動を行う

これらはボランティアコーディネーターが所属する組織のタイプや分野にかかわらず、共通して求められる役割です。組織によっては複数のスタッフがこれらを分担している場合もあるでしょう。

■市民一人ひとりの声をしっかりと「受け止める」ことから

例えば、ボランティアセンターには「何かしたい」という相談が入ります。それは漠然としたボランティアへの関心であったり、必ずしもボランティアにかぎらない地域社会との接点を求めるものであったり、社会のために役に立ちたいという願望であったり・・・。

ある時センターを訪れた一人の初老男性の第一声も「何か私でお役に立てることがあれば・・・」というものでした。退職して1年、新聞やテレビで見聞きする老人介護の大変さや悲劇を知るにつれ、自分に何か出来ないかと意を決して来所したとのこと。はじめに窓口で対応したAスタッフは、介護の経験や資格はもちろん、家事の経験すらない男性を前に、「とにかく今日のところは登録してください」と対応。とするとこのまま眠らせてしまいかねないケースでした。

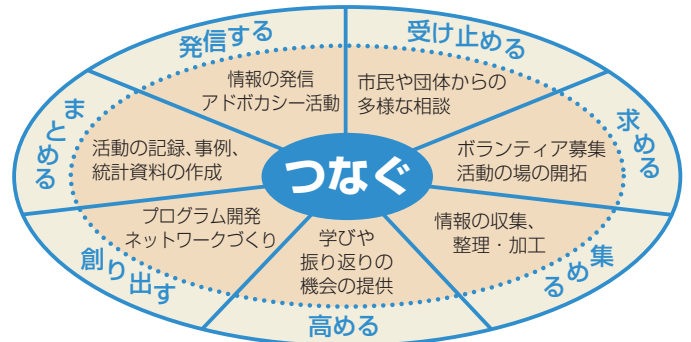
しかし、この相談の記録を見たBスタッフは、男性を次の週に開催するボランティアスクールに誘うことを提案、そして4日間の講座を

受講することになったのです。結果的にこの男性、数年後に地元で介護サービスの事業所を開業するに至ります。この間、Bスタッフは男性の何かしたい「思い」に耳を傾け、その何かを具体化するプロセスを応援し、介護の現場を見る機会をつくったり、情報やアドバイスをくれる地域の人材にもつないでいきました。

■つなぐために必要なこと、つないだことで必要になること

「つなぐ」ということはボランティアコーディネーターにとって中心的な仕事であり、もっとも期待される役割といえます。この「つなぐ」役割を行っていくために、ていねいに「受け止める」、人や活動を「求める」、活動に役立つ情報を「集める」、活動(機能)者の力を「高める」研修や学習の場をつくります。そして、「つなぐ」役割を果たしたことによって、さらに新たな活動や連携を「創り出し」たり、その成果を「まとめる」たり、まとめた実績やそこから新たに見えてきた課題を幅広く「発信」して問題提起をすることが必要になってきます。

このようにボランティアコーディネーターの8つの役割は一連の輪となって機能してこそ、社会を変えるチカラとなっていきます。



(※) 検定公式テキスト『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』
早瀬 昇・筒井のり子著／日本ボランティアコーディネーター協会編(発行:筒井書房)の筒井のり子執筆の第3章・第5節から引用・参照

◆◆◆ 会議・イベント・助成関連情報 ◆◆◆



36th 老人と障害者の自立のための
国際福祉機器展 H.C.R. 2009
Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2009

| | |
|--------|---|
| 会期 | 2009年9月29日(火)～10月1日(木) |
| 開場時間 | 10:00～17:00 |
| 会場 | 東京国際展示場「東京ビッグサイト」(東京・有明) |
| 入場料 | 無料・登録制(一部の講座等是有料) |
| 出展 | 15か国・地域490社より 約20,000点の福祉機器を総合展示 |
| WEBサイト | http://www.hcr.or.jp |

H.C.R. 2009事務局 〒100-8980
東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
(財)保健福祉広報協会 Tel. 03-3580-3052/Fax. 03-5512-9798

国際シンポジウム
「ヨーロッパ各国の女性の職域進出と育児環境」(30日)

ふくしのスキルアップ講座(予定)

- ①利用者・家族講座
ア. はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー
～自立支援(29日)、住宅改修(30日)、基本動作(1日)
イ. 高齢者向けの手軽な日々の食事(29日)
ウ. これだけある高齢者施設の種類とその現状(1日)
- ②福祉施設職員講座
ア. 院内感染予防と次亜塩素酸水の活用
～新型インフルエンザ対策(1日)
イ. 虐待防止法と福祉施設(29日) 他

その他の企画(予定)

- ①障害児のための「子ども広場」
～子ども用福祉機器相談・療育相談も実施します。
- ②福祉機器・リハビリ・自助具の相談コーナーを設けます。
- ③福祉機器の安全・安心、福祉施設の防災、介護食品を考えます。

※プログラムは変更される場合があります。
最新情報と詳細はH.C.R.Web(<http://www.hcr.or.jp>)サイトでご確認ください。